

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：平沼保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：山口 博子	定員（利用人数）： 60名（利用人数：66名）	
所在地：〒220-0055 横浜市西区浜松町13-6		
TEL：045-232-8744	ホームページ： http://www.hiranumahoikuen/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成18年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 横浜クレッシュ		
職員数	常勤職員：17名 非常勤職員：10名	
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士：1名	
	園長：1名 調理員：3名	
	主任：1名 保育補助：3名	
	保育士：17名 事務員：1名	
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）	
	保育室： 6室 園庭：有	
	トイレ： 4ヶ所	
	職員休憩室・医務室：1室	
	調理室：1ヶ所	
	事務室： 1ヶ所	
ランチルーム：1室		

③ 理念・基本方針

【保育理念】明日も行きたくなる保育園

【保育目標】自分らしく生きていける子を育む

【保育方針】

☆健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、健全な心身の発達を図ります

☆集団の中で信頼感、協調性、忍耐力、自立心を養い明るく素直で思いやりのある豊かな心を育てます。

☆季節を通じて、身近な自然や行事、地域の関わりを持ちながら好奇心や知識を蓄え、やる気を大切にし、感性を育てます。

☆のびのびとした環境の中で、個性を伸ばし、個々の発達に沿った保育を心がけます。

☆お友達や安心できる人と一緒に楽しく食べることの喜びや良い食の習慣を身につけ、年齢にあった身体的発達、精神的発達を考えながら食を通じて健康に育てます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

「明日も行きたくなる保育園」をめざして

都会の保育園ですが、駐車スペース（3台分）があることで保護者が送迎しやすく、広くて明るいランチルールや園庭があり、毎日子どもたちが楽しく遊んでいます。

【生理的欲求をかなえて】乳児クラスはゆったりした雰囲気の中生理的欲求を満たす中で、人の温かさを感じられ心身が安定するように子どもたちと向き合っています。

【コミュニケーションを活発に】少人数であるメリットをいかして、子どもたちが自分の気持ちを伝えられるようになるため、会話を大切にしています。それぞれの子どもたちの性質や特徴を捉え、職員間でもよく話し合い情報共有し、その子に合わせた会話の仕方を工夫しています。

また、脳と体の機能を高めて楽しみながら自分の体を上手に使いこなせるよう、体操教室、音楽リズム、英語教室、書き方教室も行っています。

丈夫な体作りのため『おいしい給食』になるよう食育活動も盛んに行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年10月5日（契約日）～ 令和6年4月4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)様々な体験を通して子どもの感性を育てています

園では七夕、クリスマス、節分などの行事のほかに、運動会やお楽しみ会などで子ども達が主体的に関わりをもち、皆で一緒に作り上げる達成感を味わっています。毎月の全体の朝の会やお誕生会では前に出て自分の得意な事を発表することで、人前で話せる力をつけていきます。専門の外部講師による月1回の音楽リズムでは木琴、太鼓、ティンパニーなどの楽器に触れることが出来ます。月2回の体操教室では跳び箱や鉄棒などが出来るようになり、英語教室や書き方教室では小学校入学への見通しが持て、自信へと繋がっています。様々な体験を通して子どもの感性や力を育てています。

2)保育理念の実現に向けた活動を実践しています

雨天や真夏の時期を除き、午前中は近隣にある公園へ散歩に行っています。市街地に立地した園ですが、近くには自然豊かな公園が多く、散歩コースに恵まれています。のびのびとした環境の中で個性を伸ばし、個々の発達に沿った保育を心がけています。子ども達が主体的に行動できるように促し、出来る事が一つずつ増えていくように職員は援助しています。保育理念である「明日も行きたくなる保育園」を目指しています。

3)ワーク・ライフ・バランスに優れた環境づくり

職員は毎年、理事長・園長・主任と面談をしています。面談は、職員自身の振り返りとなっています。園では有給休暇の取得促進や、時間外勤務の削減、子育て世代の職員の事情も汲み取り、働きやすい環境づくりに努めています。ワーク・ライフ・バランスに配慮して、人材の定着率向上や保育内容の充実につなげています。

4)職員の育成に向けた仕組み作りが期待されます

園では経験ある職員が多いため、クラスを担当を中心として保育内容の計画・実践がされており、統一した保育マニュアルに沿っての保育は行われていません。職員一人ひとりの研修計画の作成がなく、職員に必要とされる専門技術や専門資格の明示が十分出来ていません。今後は、職員一人ひとりの研修受講履歴を把握し、必要とされる専門技術や専門資格を明示し、達成度と取組状況を評価する仕組み作りが期待されます。

5) 地域ニーズ把握による地域貢献への取組が期待されます

新型コロナ禍で地域との交流が困難な状況が続き、昨年の園の振り返りでは地域との交流が課題となっていました。今後、地域住民と子どもとの交流の機会を定期的に設けるなどの取組が期待されます。民生・児童委員や自治会長、児童クラブ等との連携をすすめ、運営委員会の開催や、地域の母子に対する定例的な育児相談会などの実施により、地域の具体的な福祉ニーズを把握し、それに基づく貢献が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価の受審は今回で3回目です。

職員全員で自己評価に取り組むことで話し合うきっかけとなり、新たな気づきを得られたり共通理解を図ることができ、とても良い機会となりました。

訪問調査のヒアリングでは様々な観点から聞き取りを進めてくださり、日頃のこまやかな保育に対して高い評価をいただきました。指摘を受けた事項については今後改善を進めていき、よりよい保育の実践に努めていきたいと思っております。

保護者の皆様にはお忙しい中アンケート調査にご理解ご協力いただきましてありがとうございました。いただきました貴重なご意見は今後の保育・運営に反映していきたいと思っております。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり